

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470600915	事業の開始年月日	平成17年10月1日	
		指定年月日	平成17年10月1日	
法人名	特定非営利活動法人うえん会			
事業所名	グループホーム銀の鈴			
所在地	(204-0035) 横浜市保土ヶ谷区今井町880番地			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成21年12月20日	評価結果 市町村受理日	平成22年3月12日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●行事やお楽しみ会は年度当初に計画を立て、ご利用者様、ご家族様、自治会、近隣の皆様、ボランティアさん、職員一同一緒になって 楽しいひと時を過ごしたり、社会的リハビリの活動を持たせ、いきいきと日常生活を送り信頼関係を築いている。

●ご家族様と、地域の皆様のご協力により、地域の一員としてその人らしく生活できる介護支援の工夫をしている。

●管理者と職員は、実践と理論を重ね合わせるため、資格試験に挑戦したり、ホーム内外の研修に励んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成22年1月5日	評価機関 評価決定日	平成22年2月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴

①このホームはJR保土ヶ谷駅からバスで20分位のところにある。建物は3階建てでBFが玄関、エントランスロビー、事務室、職員の休憩室となっており、1F、2Fに2ユニットのグループホームが展開されている。経営は、得た縁(えん)が有る(う)を名前の由来としたNPO法人うえん会である。H16.9.6に自発的に結成された家族会は統括責任者を公私共にバックアップしてくれており、家族との絆が太いことがこのホームの最大の財産である。建物所有者は地元の人であるり、地域との友好的な関係は強い。理念はケアの方針の「心のケア」実践に向け、利用者さん最優先の姿勢で展開している。職員に資格へのチャレンジを勧め、資格手当も出すようにし、職員もケアの為に自らの特技を生かしつつ、利用者さんと一緒に楽しんでおり、生き生きとしたユニットが形成されている。平成21年10月1日には銀の鈴2号館が1ユニットで開所し、余裕ある構造でグループホーム活動の幅が広がった事も特筆すべきことである。

②地域との関係については、自治会の定例役員会に参加し、2号館の説明をし、賛同して頂いた。自治会との日頃のお付き合いの賜と感謝している。自治会とは TENT、机等を貸してくれる親密な関係や災害時の備蓄品活用の申し出、地域と一体になって実施した防災訓練など自治会、ご近所との協力体制は良い。

③ケアについては、職員は自分の希望・目的をしっかりと持っており、進める上で「信頼感」「やさしさ」でのベクトルは合っており、それに個人のアイディアを加味したケアが進められる体制があるので、これを継続して改善や新たな取組みに発展して行けると考えている。また、聖路加病院・日野原先生の薫陶を得た音楽療法の先生が約8年間継続して利用者さんをケアしてくれている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム銀の鈴
ユニット名	こもればの郷

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の一つに「地域の一員として生活できる介護支援」を掲げ、地域の中で家庭的環境を作りその人らしく暮らし続けることを支えている。また管理者と職員はその理念を共有して実践につなげられるよう話し合い、サービス提供に反映している。	理念は運営の方針である。職員は、名札に理念を入れて、これに沿うよう努力している。理念の根本は「利用者への立場を考えること」と捉えている。※法人の理念の一つに「地域の一員として生活できる介護支援」を掲げ、地域の中で家庭的環境を作りその人らしく暮らし続けることを支えている。また管理者と職員はその理念を共有して実践につなげられるよう話し合い、サービス提供に反映している。	今後も継続する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今井町自治会主催の行事には積極的に参加し、銀の鈴主催の行事には自治会と近隣の皆様をご招待している。避難訓練、消火訓練は自治会と近隣に協力を依頼し実施しており、双方向の関係を作っている。	今井町自治会に特別会員として加入し、自治会主催の行事には積極的に参加し、銀の鈴主催の行事には自治会と近隣の皆様をご招待している。避難訓練、消火訓練は自治会と近隣に協力を依頼し実施しており、双方向の関係を作っている。自治会の TENT 等の備品を借用出来るなど良い関係が出来ている。	今後も継続する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の人から、畑で作っている季節の花や野菜を頂いたり、ボランティアとして食事作りに参加していただいている。またご利用様が地域の清掃活動に参加する中で、認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議にて、ボランティア募集や、清拭用古布の提供を地域に呼びかけてはどうかの意見を取り入れ薬局にポスターを貼らせてもらい、実際に提供があった。また、ホームを趣味の発表の場として提供してはどうかの意見で地域に呼びかけている。	運営推進会議は、ホームの行事と併せて実施するようにしている。メンバーは、自治会長、民生委員、ホームの大家さんそして、ご家族3名、地域包括支援センターの方で、土、日に実施している。 ※年6回の運営推進会議にて、ボランティア募集や、清拭用古布の提供を地域に呼びかけてはどうかの意見を取り入れ薬局にポスターを貼らせてもらい、実際に提供があった。また、ホームを趣味の発表の場として提供してはどうかの意見で地域に呼びかけている。4月からは、新規に開所した2号館と合同で行う予定にしている。	今後も継続する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の福祉局や、市の高齢福祉局に行き来する機会をつくり行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。自立支援、介護認定、保護担当係など関係機関を定期的に訪問したり、運営推進会議議事録を区の担当者に届け、実情や取組みを伝えている。	区の福祉局や、市の高齢福祉局に行き来する機会をつくり行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。自立支援、介護認定、保護担当係など関係機関を定期的に訪問したり、運営推進会議議事録を区の担当者に届け、実情や取組みを伝えている。区の担当の方の見学希望を運営推進会議で伺っている。	今後も継続する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義（厚生労働省告示第129号）をホーム内数箇所に掲示し、ホーム内研修により運営者及び全職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、家族会からの申し出により施錠している（防犯上と事故防止のため）その場で管理者は施錠に対する弊害も説明している。	身体拘束の定義（厚生労働省告示第129号）をホーム内数箇所に掲示し、ホーム内研修により運営者及び全職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、家族会からの申し出により施錠している（防犯上と事故防止のため）その場で管理者は施錠に対する弊害も説明している。	今後も継続する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、高齢者虐待とは具体的にどのような事を言うのかを学び、ホーム内に虐待防止についてのポスターを貼って、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会や、地域ケアプラザ包括センターを訪問し、冊子、パンフレットの提供を受けたり、主任ケアマネさんにアドバイスを頂いている。また職員4名が社会福祉士の勉強をし、ケアプラン会議などで個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改訂等の際は、時間をかけてご利用者様や家族と面会し、不安や疑問を尋ね、十分に説明を行い理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情のホーム内窓口を作り、いつでも受け付けている。また、外部の苦情受付窓口の存在を玄関に張っている。苦情等あった時は、記録をし運営に反映させ、迅速に対応し、それらを運営に反映させている。家族の面会時には暮らしぶりを伝え変化があれば知らせている。家族会や運家推進会議において、運営について意見や苦情を述べる機会を作っている。	この家族会は、青葉区の時代から継続したものであり、結束は固い。管理者をサポートしていきっていて、有難い。意見、不満、苦情のホーム内窓口を作り、いつでも受け付けている。また、外部の苦情受付窓口の存在を玄関に張っている。苦情等あった時は、記録をし運営に反映させ、迅速に対応し、それらを運営に反映させている。家族の面会時には暮らしぶりを伝え変化があれば知らせている。家族会や運家推進会議において、運営について意見や苦情を述べる機会を作っている。	今後も継続する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少なくとも、毎月1回のミーティング以外にも管理者は常時運営に関する職員の相談、意見、提案を受け、働く意欲の向上や質の確保に努めている。利用者の状況については、いつでも報告相談の連絡の体制がある。(24時間対応)	少なくとも、毎月1回のミーティング以外にも管理者は常時運営に関する職員の相談、意見、提案を受け、改善手当なども支給し、資格取得の意欲をうながし、バックアップし、資格を取得すれば、資格手当等も出すようにしている。働く意欲の向上や質の確保に努めている。利用者の状況については、いつでも報告相談の連絡の体制がある。(24時間対応)	今後も継続する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフトは管理者が組んでいるので、勤務状況を把握できている。労働条件については、雇用契約を結ぶことで労働基準を遵守している。職員各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。休憩室にはコーヒー抽出機、テレビ、足マッサージ器、エアコンを設置している。本年度はロッカーを買い換えて、職員全員が大きなものになった。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度当初に研修計画を立て、ホーム内外の研修を受ける機会の確保をしている。研修時は、時間外手当がつき、休日にあたっているときは休日手当が支給される。就業年月により取得できる資格は、働きながら資格の取得できる機会を提供し、就業証明書を作成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会で実施する職員交換研修に参加するなど、同業者と交流の機会を得て職員のサービスの向上をさせていく取り組みをしている。また管理者はグループホーム協議会のブロック会議に参加し、同業者と交流している。さらに管理者は個人的に交流のあるグループホームの経営者や管理者と相互訪問の機会を大事にし、情報の交換に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談では、本人に事前面接を実施し困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための信頼関係の構築に努めている。事前面接の時間の設定は午後のお茶の時間帯にすることで、くつろげる雰囲気作りに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族による入居相談のときは、見学を依頼しご家族自身でホーム内の雰囲気を感じ取っていただけるよう配慮している。見学時には家族が困っていること、不安なこと、要望に耳を傾けながら信頼を構築できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームはショートステイができる利点を活用している。また、入居に緊急を要する場合で、待機となる時には必要としている支援を見極め、他のグループホームや社会資源を紹介するなど対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の持てる力を発揮できるように共同生活をする中で、利用者を人生の先輩として生活の知恵や生き方を学ばせていただくことにより、支えあう関係を構築している。	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の絆を大切にしながら、利用者の今後の人生を支えるために、職員は家族と緊密な関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が穏やかに暮らせるように、馴染みの人との面会が自由で制限は設けていない。また外出、外泊は自由にできる。たとえばふるさと訪問、教会での勉強会、彼岸・お盆のお寺参りなどを通して、これまで培ってきた地域や社会での人間関係を継続的・積極的にかかわりを図ることで、利用者の安心と納得を得られるよう支援している。	利用者が穏やかに暮らせるように、馴染みの人との面会が自由で制限は設けていない。また外出、外泊は自由にできる。たとえばふるさと訪問、教会での勉強会、彼岸・お盆のお寺参りなどを通して、これまで培ってきた地域や社会での人間関係を継続的・積極的にかかわりを図ることで、利用者の安心と納得を得られるよう支援している。 今後も継続する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で利用者同士が台所仕事、庭掃除、植栽などの共同作業やリクリエーションにおいて、孤立する利用者がいないように支援している。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すでに退所されたご家族より、時候の手紙や電話、心遣いを頂く事がたびたびある。また、すでにご利用者様が亡くなり退所にいたっても、家族会の役員を続けたいとの申し出があったり、行事に参加し家族同士の交流を深めている。特別養護老人ホームへ移動された人を定期的に訪問している。			
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中でのご利用者様の希望や意向の把握に努めている。実現が困難な場合は、介護計画の立案時に、ご利用者、ご家族、医療関係者、管理者、職員、必要なら保護担当者も含め、意向に沿えるよう検討する。	日常生活の中でのご利用者様の希望や意向の把握に努めている。実現が困難な場合は、介護計画の立案時に、ご利用者、ご家族、医療関係者、管理者、職員、必要なら保護担当者も含め、意向に沿えるよう検討する。職員は常に利用者に居場所、生き甲斐の場所を作ってあげるように心掛けている。		今後も継続する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを入居時のアセスメントにより把握し、馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	通常の個人カルテの記録のほかに、焦点になる必要情報を抽出し、毎日それを記録する事により、一人ひとりの暮らし方や、心身状態、持てる力を具体的に把握するよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族、関係者と話し合い、アセスメント、介護計画、実行、評価を繰り返し、見直すことで、それぞれの意見を反映させ、画一的なケアを排除し、個別ケアを重視した現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者様、ご家族、関係者と話し合い、アセスメント、介護計画、実行、評価を繰り返し、見直すことで、それぞれの意見を反映させ、画一的なケアを排除し、個別ケアを重視した現状に即した介護計画を作成している。良い介護計画、良いアセスメントが出来るように職員は、資格等に挑戦し、レベルアップに努めている。	今後も継続する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテを、日勤、夜勤に分けて記録し、詳細に記録が必要な時は、個人カルテ2号様式に記録している。かつ、申し送りノートや管理者からの申し送りにより、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	たけのこ堀り、演歌や野だて茶会、みかん狩りなど、地域のボランティアによるインフォーマンな支援とサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる散歩や料理、駐在所との連携、消防署の協力を得た避難訓練と消火訓練の実施、和太鼓、三味線、ギター演奏会、民生委員の運営推進会議への参加、社会福祉協議会からの車椅子の貸付など。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様とご家族の希望により、馴染みの受診先での医療を受けたり、内科一般、鍼灸師、歯科医の往診により適切な医療を定期的に受けられるよう医療体制を確立している。かかりつけ医の通院の場合は、家族を介して情報交換を確実にしている。	ご利用者様とご家族の希望により、馴染みの受診先での医療を受けたり、内科一般、鍼灸師、歯科医の往診により適切な医療を定期的に受けられるよう医療体制を確立している。かかりつけ医の通院の場合は、家族を介して情報交換を確実にしている。	今後も継続する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を採用したことで、介護職員は看護師と協働して個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、こまめに面会し、不安や不穏のないように努めている。サマリーを提供し病院との情報交換に努めている。入院中に食事の介助のために職員が通院したり、リハビリの様子を観察しに行き、退院後はホームでの生活に即対応できるよう配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に係る指針（重度化と終末期）により、ご利用者様と、ご家族の希望を伺い、書面の提出を受けている。ご利用者様が重度化、看取りの必要が生じた場合、医療関係者と職員が協力し、統一した意見の下でチームとしての支援に取り組んでいる。	重度化に係る指針（重度化と終末期）により、ご利用者様と、ご家族の希望を伺い、書面の提出を受けている。ご利用者様が重度化、看取りの必要が生じた場合、医療関係者と職員が協力し、統一した意見の下でチームとしての支援に取り組んでいる。ご家族の重度化した場合の意見は折々に医師を含めて確認し、方向を決めている。	今後も継続する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、全ての職員が年度当初に急変や事故発生時の備えになるレジュメにより、ホーム内修と訓練を行っている。かつ看護師（職員）に日常的に、教育指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会と近隣の人々の協力により、ご利用者様と共に、避難用具の使用による避難訓練と、消火訓練を行った。非常食、飲料水、オムツ、毛布等の備蓄をし、備蓄場所も数箇所に分散している。	自治会と近隣の人々の協力により、ご利用者様と共に、避難用具の使用による避難訓練と、消火訓練を行った。非常食、飲料水、オムツ、毛布等の備蓄をし、備蓄場所も数箇所に分散している。備蓄した物については、いつまでも使える状態にしていく配慮をつづけている。土砂くずれの対象地域でもあるので、その講習に参加する予定となっている。	今後も継続する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にご利用者様の人格を尊重し、呼称は様付けでお呼びしている。敬語を使用し尊厳を守っている。記録等個人情報の取り扱いには十分に配慮している。個人情報等、書類の保管は事務所にて行い、事務所が不在になるときは、必ず施錠をし守秘の徹底に努めている。	常にご利用者様の人格を尊重し、呼称は様付けでお呼びしている。敬語を使用し尊厳を守っている。記録等個人情報の取り扱いには十分に配慮している。個人情報等、書類の保管は事務所にて行い、事務所が不在になるときは、必ず施錠をし守秘の徹底に努めている。	今後も継続する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の希望の表出ができるよ人間関係を築き、傾聴、共感を大切にし、個々のご利用者様に合わせた説明を行い、自己決定ができ納得しながら暮らせるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿った日常の支援をしている	職員の都合による業務を優先することなく、食事の時間や、休息、入浴、散歩など、個々のペースに合わせて、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿った日常の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の好みに合った服を着ていただく。月一回の理容師の訪問があり、毛染めやパーマなど、希望に沿ったオシャレを支援している。ご希望によりマニキュアをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は、職員とご利用者様が一緒に行い、旬の食材や、嗜好品を購入し、食事が楽しみなものになるように支援している。使い慣れた茶碗、はし、湯飲みなど持参していただいている。ご利用者様と職員と一緒に食事作りや片づけをし、持てる力を活かしている。	食材の買い物は、職員とご利用者様が一緒に行い、旬の食材や、嗜好品を購入し、食事が楽しみなものになるように支援している。使い慣れた茶碗、はし、湯飲みなど持参していただいている。ご利用者様と職員と一緒に食事作りや片づけをし、持てる力を活かしている。	今後も継続する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を作るときは食材の組み合わせにより、栄養バランスを考え、個々の食べられる量を把握し、水分は1日を通して必要量を確保できるように支援している。また個別栄養サービスを作成し、カロリー制限や疾病のあるご利用者は、医師や看護師の指示により、食事を提供している。食事・水分摂取量の正確な記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回の訪問歯科医と歯科衛生士による口腔ケアを実施している。また、毎食後は必ず歯磨きをし、職員は磨き残しの確認やフォローを行っている。夕食後は義歯の消毒を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況、パターンを把握し、定期的にトイレ誘導に努め、可能な限りトイレでの排泄を促し、オムツの使用量を減らす努力をしている。また、居室にトイレを設置していることで、特に夜間の排泄が間に合わないことの防止になっている。気兼ねなく気持ちよく居室で排泄ができる。	個々の排泄状況、パターンを把握し、定期的にトイレ誘導に努め、可能な限りトイレでの排泄を促し、オムツの使用量を減らす努力をしている。また、居室にトイレを設置していることで、特に夜間の排泄が間に合わないことの防止になっている。気兼ねなく気持ちよく居室で排泄ができる。	今後も継続する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を多く含むものを提供したり、水分の補給のためにお茶、スポーツドリンクを使用して便秘の予防に取り組んでいる。また、腸の動きを良くするマッサージ、体操、散歩を促しながら、個々の排便パターンを把握したり、必要に応じて医師の指示で便秘薬を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限り、本人の意向に沿った方法（湯船や夏場のシャワー）や日時を考慮している。また羞恥心や恐怖心等への配慮をし、担当職員や介助の方法を変えている。季節により、菖蒲湯、ゆず湯などをし、冬場は入浴剤を入れるなど、入浴を楽しめるように支援している。半身浴で好きな時間入浴されるご利用者様もおられる。	可能な限り、本人の意向に沿った方法（湯船や夏場のシャワー）や日時を考慮している。また羞恥心や恐怖心等への配慮をし、担当職員や介助の方法を変えている。季節により、菖蒲湯、ゆず湯などをし、冬場は入浴剤を入れるなど、入浴を楽しめるように支援している。半身浴で好きな時間入浴されるご利用者様もおられる。	今後も継続する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の休息のペースを掴み、日中希望があれば昼寝をしていただく。終身時間は特に決まっておらず、体調に合わせた希望の時間に寝ていただく。また、本人の生活習慣を尊重し、起床時間も決まっていない。気持ちよく休息できるよう寝具を清潔に保ち、ベット周りの環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの効能書きを個別にファイルし、職員は、薬の目的、副作用、用法用量について十分に理解できるよう服薬マニュアルを作成している。特に医師の指示で薬が変わった時には、記録や申し送りを確実にやっている。職員は服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の生活歴を活かした、家事や庭仕事の支援を行っている。耕作、野菜の収穫、動物介在介護（抱く、散歩する）音楽療法などを行っている。また、生きる支えである宗教の自由を尊重し、教会での勉強会、お盆お彼岸のお寺参りなどに行けるよう支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿って自由に散歩に出かけられる体制となっている。またホームの犬を連れて出かける方、戸外で日光浴をされる方、職員と買い物に出かける方、家族との温泉旅行での外泊、ドライブ、法事での地方のお墓参り、宝塚歌劇団の公演の鑑賞など、利用者本位の支援を行っている。	個々の希望に沿って自由に散歩に出かけられる体制となっている。またホームの犬を連れて出かける方、戸外で日光浴をされる方、職員と買い物に出かける方、家族との温泉旅行での外泊、ドライブ、法事での地方のお墓参り、宝塚歌劇団の公演の鑑賞など、利用者本位の支援を行っている。	今後も継続する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを持っている利用者は、自己管理の上、身の回りのもの、おやつ、整容の品を購入している。職員が付き添っての買い物時は、適宜アドバイスや見守りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアーに一台、ご家族様にのみ番号を開示している電話を設置し、いつでも掛けていただける。また、ご利用者様の申し出があったら、自由に使用していただけるよう支援している。手紙のやり取りも自由にできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏はリビングや廊下に簾をかけ、強い日差しを防ぐと共に、夏の風物を堪能している。季節の切花、植木、観葉植物を常に飾っている。また、正月飾り、雛人形、節句人形、お月見のお供えなど、季節の風習を取り入れ季節感を味わっている。共用空間は絶えず清潔を心がけ、毎日掃除を徹底している。日差しが強いときは心地よく過ごせる工夫を取り入れている。業務上生じる不快な音は極力排除する心がけをし、24時間空気清浄機を稼働し、温度・換気の管理を徹底している。	夏はリビングや廊下に簾をかけ、強い日差しを防ぐと共に、夏の風物を堪能している。季節の切花、植木、観葉植物を常に飾っている。また、正月飾り、雛人形、節句人形、お月見のお供えなど、季節の風習を取り入れ季節感を味わっている。共用空間は絶えず清潔を心がけ、毎日掃除を徹底している。日差しが強いときは心地よく過ごせる工夫を取り入れている。業務上生じる不快な音は極力排除する心がけをし、24時間空気清浄機を稼働し、温度・換気の管理を徹底している。イベントの時の写真を掲示している。	今後も継続する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外に木製のベンチが4台設置しており、リビングにも畳のスペースを設け、廊下に長いすを配置し、日向ぼっこをしながらセーターを編んだり、くつろいで過ごせるスペースがある。共用空間では気のあった利用者同士で過ごせるよう自由なテーブル、椅子の配置をしている。また、会話を楽しみたい方、テレビを見たい方、それぞれに居場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が家庭で使い慣れたものや、思い出のあるものを持参して、思い思いに家具の配置やコーディネートを行い、居室で心地よく過ごす工夫をしている。例えば、仏壇、タンス、鏡台、時計、ベッド、家族の写真など、自宅使用の馴染みのものを持参している。	本人が家庭で使い慣れたものや、思い出のあるものを持参して、思い思いに家具の配置やコーディネートを行い、居室で心地よく過ごす工夫をしている。例えば、仏壇、タンス、鏡台、時計、ベッド、家族の写真など、自宅使用の馴染みのものを持参している。各居室にトイレが有ることで、プライバシーは守られていて良い。	今後も継続する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、共同トイレ、浴室、居室トイレには手すりを設置している。エレベーターが設置されているが、身体機能に応じて使用している。両側に手すりがある階段は自発的なりハビリの場になっている。また居室ドアの表札や床の導線テープなど「分かること」を活かす工夫をしている。		

事業所名	グループホーム銀の鈴
ユニット名	虹の郷

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の一つに「地域の一員として生活できる介護支援」を掲げ、地域の中で家庭的環境を作りその人らしく暮らし続けることを支えている。また管理者と職員はその理念を共有して実践につなげられるよう話し合い、サービス提供に反映している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今井町自治会主催の行事には積極的に参加し、銀の鈴主催の行事には自治会と近隣の皆様をご招待している。避難訓練、消火訓練は自治会と近隣に協力を依頼し実施しており、双方向の関係を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の人から、畑で作っている季節の花や野菜を頂いたり、ボランティアとして食事作りに参加していただいている。またご利用者が地域の清掃活動に参加する中で、認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議にて、ボランティア募集や、清拭用古布の提供を地域に呼びかけてはどうかとの意見を取り入れ薬局にポスターを貼らせてもらい、実際に提供があった。また、ホームを趣味の発表の場として提供してはどうかとの意見で地域に呼びかけている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の福祉局や、市の高齢福祉局に行き来する機会をつくり行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。自立支援、介護認定、保護担当係など関係機関を定期的に訪問したり、運営推進会議議事録を区の担当者に届け、実情や取り組みを伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義（厚生労働省告示第129号）をホーム内数箇所に掲示し、ホーム内研修により運営者及び全職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、家族会からの申し出により施錠している（防犯上と事故防止のため）その場で管理者は施錠に対する弊害も説明している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、高齢者虐待とは具体的にどのような事を言うのかを学び、ホーム内に虐待防止についてのポスターを貼って、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会や、地域ケアプラザ包括センターを訪問し、冊子、パンフレットの提供を受けたり、主任ケアマネさんにアドバイスを頂いている。また職員4名が社会福祉士の勉強をし、ケアプラン会議などで個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改訂等の際は、時間をかけてご利用者様や家族と面会し、不安や疑問を尋ね、十分に説明を行い理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情のホーム内窓口を作り、いつでも受け付けている。また、外部の苦情受付窓口の存在を玄関に張っている。苦情等あった時は、記録をし運営に反映させ、迅速に対応し、それらを運営に反映させている。家族の面会時には暮らしぶりを伝え変化があれば知らせている。家族会や運家推進会議において、運営について意見や苦情を述べる機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少なくとも、毎月1回のミーティング以外にも管理者は常時運営に関する職員の相談、意見、提案を受け、働く意欲の向上や質の確保に努めている。利用者の状況については、いつでも報告相談の連絡の体制がある。(24時間対応)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフトは管理者が組んでいるので、勤務状況を把握できている。労働条件については、雇用契約を結ぶことで労働基準を遵守している。職員各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。休憩室にはコーヒー抽出機、テレビ、足マッサージ器、エアコンを設置している。本年度はロッカーを買い換えて、職員全員が大きなものになった。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度当初に研修計画を立て、ホーム内外の研修を受ける機会の確保をしている。研修時は、時間外手当がつき、休日にあたっているときは休日手当が支給される。就業年月により取得できる資格は、働きながら資格の取得できる機会を提供し、就業証明書を作成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会で実施する職員交換研修に参加するなど、同業者と交流の機会を得て職員のサービスの向上をさせていく取組みをしている。また管理者はグループホーム協議会のブロック会議に参加し、同業者と交流している。さらに管理者は個人的に交流のあるグループホームの経営者や管理者と相互訪問の機会を大事にし、情報の交換に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談では、本人に事前面接を実施し困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための信頼関係の構築に努めている。事前面接の時間の設定は午後のお茶の時間帯にすることで、くつろげる雰囲気作りに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族による入居相談のときは、見学を依頼しご家族自身でホーム内の雰囲気を感じ取っていただけるよう配慮している。見学時には家族が困っていること、不安なこと、要望に耳を傾けながら信頼を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームはショートステイができる利点を活用している。また、入居に緊急を要する場合で、待機となる時には必要としている支援を見極め、他のグループホームや社会資源を紹介するなど対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の持てる力を発揮できるように共同生活をする中で、利用者を人生の先輩として生活の知恵や生き方を学ばせていただくことにより、支えあう関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の絆を大切にしながら、利用者の今後の人生を支えるために、職員は家族と緊密な関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が穏やかに暮らせるように、馴染みの人との面会が自由で制限は設けていない。また外出、外泊は自由にできる。たとえば家族の家で過ごしたり、馴染みの美容院に出かけるなど、これまで培ってきた地域や社会での人間関係を継続的・積極的にかかわりを図ることで、利用者の安心と納得を得られるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で利用者同士が台所仕事、庭掃除、植栽などの共同作業やリクリエーションにおいて、孤立する利用者がいないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すでに退所されたご家族より、時候の手紙や電話、心遣いを頂く事がたびたびある。また、すでにご利用者様が亡くなり退所にいたっても、家族会の役員を続けたいとの申し出があったり、行事に参加し家族同士の交流を深めている。グループホームや高齢者向け住宅、リハビリ病院などに移動された人を定期的に訪問している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中でのご利用者様の希望や意向の把握に努めている。実現が困難な場合は、介護計画の立案時に、ご利用者、ご家族、医療関係者、管理者、職員、必要なら保護担当者も含め、意向に沿えるよう検討する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを入居時のアセスメントにより把握し、馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	通常の個人カルテの記録のほかに、焦点になる必要情報を抽出し、毎日それを記録する事により、一人ひとりの暮らし方や、心身状態、持てる力を具体的に把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族、関係者と話し合い、アセスメント、介護計画、実行、評価を繰り返し、見直すことで、それぞれの意見を反映させ、画一的なケアを排除し、個別ケアを重視した現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテを、日勤、夜勤に分けて記録し、詳細に記録が必要な時は、個人カルテ2号様式に記録している。かつ、申し送りノートや管理者からの申し送りにより、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	たけのこ掘り、演歌や野だて茶会、みかん狩りなど、地域のボランティアによるインフォーマンな支援とサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる散歩や料理、駐在所との連携、消防署の協力を得た避難訓練と消火訓練の実施、和太鼓、三味線、ギター演奏会、民生委員の運営推進会議への参加、社会福祉協議会からの車椅子の貸付など。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様とご家族の希望により、馴染みの受診先での医療を受けたり、内科一般、鍼灸師、歯科医の往診により適切な医療を定期的に受けられるよう医療体制を確立している。かかりつけ医の通院の場合は、家族を介して情報交換を確実に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を採用したことで、介護職員は看護師と協働して個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、こまめに面会し、不安や不穏のないように努めている。サマリーを提供し病院との情報交換に努めている。入院中に食事の介助のするために職員が通院したり、リハビリの様子を観察しに行き、退院後はホームでの生活に即対応できるよう配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に係る指針（重度化と終末期）により、ご利用者様と、ご家族の希望を伺い、書面の提出を受けている。ご利用者様が重度化、看取りの必要が生じた場合、医療関係者と職員が協力し、統一した意見の下でチームとしての支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、全ての職員が年度当初に急変や事故発生時の備えになるレジュメにより、ホーム内修と訓練を行っている。かつ看護師（職員）に日常的に、教育指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会と近隣の人々の協力により、ご利用者様と共に、避難用具の使用による避難訓練と、消火訓練を行った。非常食、飲料水、オムツ、毛布等の備蓄をし、備蓄場所も数箇所に分散している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にご利用者様の人格を尊重し、呼称は様付けでお呼びしている。敬語を使用し尊厳を守っている。記録等個人情報の取り扱いには十分に配慮している。個人情報等、書類の保管は事務所にて行い、事務所が不在になるときは、必ず施錠をし守秘の徹底に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の希望の表出ができるよ人間関係を築き、傾聴、共感を大切にし、個々のご利用者様に合わせた説明を行い、自己決定ができ納得しながら暮らせるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合による業務を優先することなく、食事の時間や、休息、入浴、散歩など、個々のペースに合わせて、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿った日常の支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の好みに合った服を着ていただく。月一回の理容師の訪問があり、毛染めやパーマなど、希望に沿ったオシャレを支援している。ご希望によりマニキュアをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は、職員とご利用者様が一緒に行い、旬の食材や、嗜好品を購入し、食事が楽しみなものになるように支援している。使い慣れた茶碗、はし、湯飲みなど持参していただいている。ご利用者様と職員が一緒に食事作りや片づけをし、持てる力を活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を作るときは食材の組み合わせにより、栄養バランスを考え、個々の食べられる量を把握し、水分は1日を通して必要量を確保できるように支援している。また個別栄養サービスを作成し、カロリー制限や疾病のあるご利用者は、医師や看護師の指示により、食事を提供している。食事・水分摂取量の正確な記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回の訪問歯科医と歯科衛生士による口腔ケアを実施している。また、毎食後は必ず歯磨きをし、職員は磨き残しの確認やフォローを行っている。夕食後は義歯の消毒を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況、パターンを把握し、定期的にトイレ誘導に努め、可能な限りトイレでの排泄を促し、オムツの使用量を減らす努力をしている。また、居室にトイレを設置することで、特に夜間の排泄が間に合わないことの防止になっている。気兼ねなく気持ちよく居室で排泄ができる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を多く含むものを提供したり、水分の補給のためにお茶、スポーツドリンクを使用して便秘の予防に取り組んでいる。また、腸の動きを良くするマッサージ、体操、散歩を促しながら、個々の排便パターンを把握したり、必要に応じて医師の指示で便秘薬を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限り、本人の意向に沿った方法（湯船や夏場のシャワー）や日時を考慮している。また羞恥心や恐怖心等への配慮をし、担当職員や介助の方法を変えている。季節により、菖蒲湯、ゆず湯などをし、冬場は入浴剤を入れるなど、入浴を楽しめるように支援している。半身浴で好きな時間入浴されるご利用者様もおられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の休息のペースを掴み、日中希望があれば昼寝をしていただく。終身時間は特に決まっておらず、体調に合わせた希望の時間に寝ていただく。また、本人の生活習慣を尊重し、起床時間も決まっていない。気持ちよく休息できるよう寝具を清潔に保ち、ベット周りの環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの効能書きを個別にファイルし、職員は、薬の目的、副作用、用法用量について十分に理解できるよう服薬マニュアルを作成している。特に医師の指示で薬が変わった時には、記録や申し送りを確実にしている。職員は服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の生活歴を活かした、家事や庭仕事の支援を行っている。動物介在介護（抱く、散歩する）音楽療法などを行っている。また、琴を自宅から持参され演奏されたり、面会の折に生後間もない孫を抱いたり、自宅で飼っていた犬を連れてきて触れ合う事など、一人ひとりが楽しみを持っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿って自由に散歩に出かけられる体制となっている。家族の迎えで自宅へ帰宅したり、外食へ行ったり、職員と買い物に出かけるなど、本人の希望に沿って、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを持っている利用者は、自己管理の上、身の回りのもの、おやつ、整容の品を購入している。職員が付き添っての買い物時は、適宜アドバイスや見守りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアに一台、ご家族様にのみ番号を開示している電話を設置し、いつでも掛けていただける。また、ご利用者様の申し出があったら、自由に使用していただけるよう支援している。手紙のやり取りも自由にできるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏はリビングや廊下に簾をかけ、強い日差しを防ぐと共に、夏の風物を堪能している。季節の切花、植木、観葉植物を常に飾っている。また、正月飾り、雛人形、節句人形、お月見のお供えなど、季節の風習を取り入れ季節感を味わっている。共用空間は絶えず清潔を心がけ、毎日掃除を徹底している。日差しが強いときは心地よく過ごせる工夫を取り入れている。業務上生じる不快な音は極力排除する心がけをし、24時間空気清浄機を稼働し、温度・換気の管理を徹底している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外に木製のベンチが4台設置しており、リビングにも畳のスペースを設け、廊下に長いすを配置し、日向ぼっこをしながらセーターを編んだり、くつろいで過ごせるスペースがある。共用空間では気のあった利用者同士で過ごせるよう自由なテーブル、椅子の配置をしている。また、会話を楽しみたい方、テレビを見たい方、それぞれに居場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が家庭で使い慣れたものや、思い出のあるものを持参して、思い思いに家具の配置やコーディネートを行い、居室で心地よく過ごす工夫をしている。例えば、仏壇、タンス、鏡台、時計、ベッド、家族の写真など、自宅使用の馴染みのものを持参している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、共同トイレ、浴室、居室トイレには手すりを設置している。エレベーターが設置されているが、身体機能に応じて使用している。両側に手すりがある階段は自発的なリハビリの場になっている。また居室ドアの表札や床の導線テープなど「分かること」を活かす工夫をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム銀の鈴
こもればの郷、虹の郷

作成日

平成21年12月20日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内 容	目標達成に 要する期間
1	10	写真のホームページ掲載 についての同意を得る必 要がある。	ご利用者様、ご契約者様 の意向を反映した写真の 利用を実施する。	ご利用者様、ご家族、ボ ランティア、職員にアン ケートを実施し、ホーム ページ掲載の可否を調査 する。	平成22年3月ま で
2	13	業務マニュアル、研修資 料の一部を新しいものに 差し替えた際に、速やか に全職員に周知する。	申し送りノートや、掲示 板を使用し、全職員への 速やかな周知を行う。	申し送りノートや掲示板 を使用し、今後、業務マ ニュアル、研修資料の一 部でも刷新した場合、速 やかに周知する。	平成22年3月ま で
3	35	避難器具（ショルダー担 架帯、おぶり紐など）の 扱いに、ご利用者と職員 が慣れる必要がある。	全職員が、確実に使え、 慣れるようになる。	定期訓練以外にも、避難 器具を使う研修を、職 員、ご利用者様間で行 う。	平成23年3月ま で
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。